

# 報告書(XBRL)作成 ツール 操作ガイド

(次世代EDINET案)

平成 25 年 4 月

金融庁 総務企画局 企業開示課

- ◆Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- ◆Microsoft、Excel、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標又は商標です。
- ◆Adobe® product screen shots reprinted with permission from Adobe Systems Incorporated.
- ◆Adobe、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator は、Adobe Systems Incorporated の登録商標又は商標です。
- ◆その他、記載されている会社名及び製品名は、各社の登録商標又は商標です。
- ◆本文中では、TM、®、©は省略しています。
- ◆本文及び添付のデータファイルで題材として使用している個人名、団体名、商品名、ロゴ、連絡先、メールアドレス、場所、出来事等は、全て架空のもので、実在するものとは一切関係ありません。
- ◆本書に掲載されている内容は、平成 25 年 4 月現在のもので、予告なく変更される可能性があります。
- ◆本書は、構成、文章、プログラム、画像、データ等の全てにおいて、著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、いかなる方法においても複写、複製等、著作権法上で規定された権利を侵害する行為をすることは禁じられています。
- ◆本書に記載の会社名及び製品名について、金融庁はそれらの会社、製品等を推奨するものではありません。

<b>1 章 はじめに</b>	<b>1</b>
1 概要	2
2 書類提出の手順	4
<b>2 章 報告書の作成</b>	<b>5</b>
1 作成ツールのダウンロード	6
1-1 作成ツールのダウンロード	6
1-1-1 ダウンロードした作成ツールの解凍	9
1-1-2 デジタル署名の確認	11
2 報告書データ(XBRL 形式)の作成	14
2-1 作成ツールの起動	14
2-2 画面構成	16
2-2-1 メニュー画面	16
2-2-2 作成画面	17
2-2-3 作成ツール使用時の注意点	19
2-2-4 エラーメッセージの一覧	23
2-3 作成ツールの使用	25
2-3-1 報告書データ(XBRL 形式)の作成	25
2-3-2 報告書データの編集	28
3 報告書データ(XBRL 形式)の確認	30
4 EDINET に書類提出	31
5 訂正報告書の作成	32
5-1 訂正報告書作成時の制限事項	34

## 本書について

本書は、「報告書(XBRL)作成ツール」を使用して各種報告書(8様式)を作成し、EDINETに提出する方のための操作ガイドで、「報告書(XBRL)作成ツール」の使用方法について記載しています。

### 報告書(XBRL)作成ツールを使用する場合の留意事項について

報告書(XBRL)作成ツールでは、報告書内容入力時に全てのバリデーション(検証)を実施しているわけではありません。報告書内容入力後の事前チェック時、仮登録時又は本登録時において、初めて例外(警告又は注意喚起)となる場合があります。例えば表紙の「提出日」に誤った書類提出日を入力していた場合、報告書内容入力時には例外(警告又は注意喚起)とならなくても、EDINETでの本登録時に例外(警告又は注意喚起)となります。報告書内容を入力する際は、入力内容に誤りがないかどうかを確認してください。






### 本書の表記について

本書は次の環境で作成されています。

OS	Microsoft Windows 7 SP1
ソフトウェア	Microsoft Internet Explorer 9

本書の記載について

本書内に記載されている記号は、次のような意味があります。

表示	意味	表示	意味
POINT 	操作に関連するポイントについて説明しています。		画面の入力又は選択する項目を指します。
MEMO 	知っておいていただきたいことについて説明しています。		画面で表示された項目を指します。
 重要	重要事項について説明しています。必ずお読みください。	《 》	画面の項目名を指します。 例:《EDINET コード》をクリックします。
【 】	キーを押す操作を指します。 例:【F5】キーを押します。	[ ]	画面名を指します。 例:[提出者検索画面]が表示されます。

製品名の記載について

本書では、次の略称を使用しています。

名称	略称
Windows 7	Windows 7 又は Windows
Windows Vista	Windows Vista 又は Windows
Windows XP	Windows XP 又は Windows
Windows Internet Explorer 9	Internet Explorer 9 又は Internet Explorer
Windows Internet Explorer 8	Internet Explorer 8 又は Internet Explorer
Windows Internet Explorer 7	Internet Explorer 7 又は Internet Explorer

用語について

本書に記載されている府令略称及び EDINET タクソノミに関する用語は、『EDINET タクソノミ用語集』を参照してください。また、EDINET における XBRL については、『EDINET タクソノミ新仕様の概要説明』を参照してください。

**<<EDINET の利用に当たって>>**

**EDINET を装い、ユーザ ID、パスワード等の個人情報を盗もうとする偽の Web サイトに注意してください。**

**このような Web サイトに誘導するメールが届いても、リンク先にアクセスしたり、添付ファイルを開いたりしないように注意してください。**

**EDINET からメールで個人情報を照会することは一切ありません。**

**なお、ウィルス対策ソフトを最新の状態にするなど、御利用環境のセキュリティ対策をおすすめします。**

# 1章 はじめに

---

# 1 概要

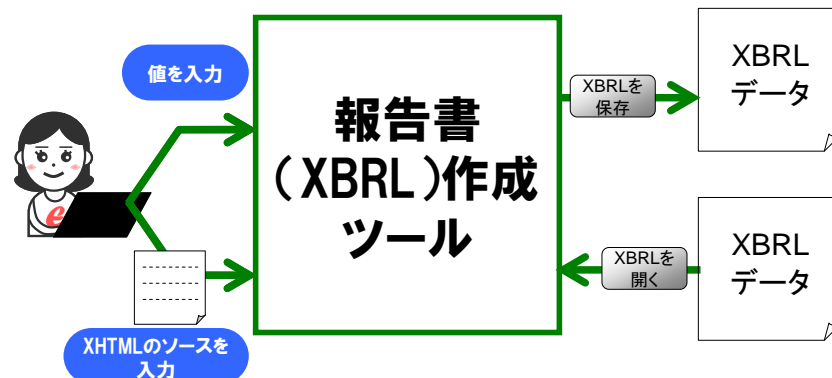
報告書(XBRL)作成ツールについて説明します。

「報告書(XBRL)作成ツール」(以下「作成ツール」という。)を使用して、次の報告書データ(XBRL形式)を作成することができます。

- (1) 企業開示府令 自己株券買付状況報告書 第十七号様式
- (2) 他社株買付府令 公開買付届出書 第二号様式
- (3) 企業開示府令 臨時報告書 第五号の三様式
- (4) 特定有価証券開示府令 臨時報告書 様式なし
- (5) 他社株買付府令 公開買付撤回届出書 第五号様式
- (6) 他社株買付府令 公開買付報告書 第六号様式
- (7) 他社株買付府令 対質問回答報告書 第八号様式
- (8) 内部統制府令 内部統制報告書 第一号様式

作成ツールは、上記の各報告書及び届出書の入力フォームが用意されており、各報告項目の値を入力し、入力した内容を基にEDINETに提出するためのXBRL形式の報告書データを作成します。また、作成した報告書データ(XBRL形式)を読み込んで、修正又は読み込んだデータを基に他の報告書を作成することもできます。

※作成ツール以外で作成した報告書データ(XBRL形式)は読み込みができない可能性があります。報告項目の入力時には、下図のようにXHTMLのソースも入力することができます。

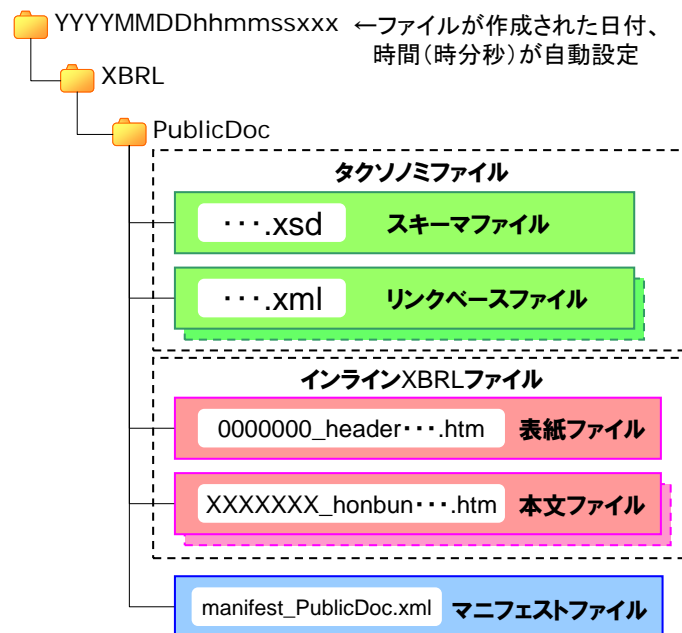


## **重要** 繁忙期の書類提出時の注意

繁忙期(6月、8月、11月及び2月)は混雑により事前チェック又は仮登録に長い時間が必要となる場合があります。提出期限に十分な余裕をもって提出作業をしてください。



入力した内容を基に、報告書データ（XBRL 形式）が次の図のように作成されます。  
※報告書データ(XBRL 形式)作成時に指定したフォルダに、作成日付時間のフォルダが作成され、その配下に「XBRL」フォルダ、「PublicDoc」フォルダが作成されます。各種提出用の XBRL データは「PublicDoc」フォルダ内に作成されます。



作成ツールは次のいずれかのブラウザを導入した環境でお使いください。

- (1) Internet Explorer 7.0
- (2) Internet Explorer 8.0
- (3) Internet Explorer 9.0

---

### **重要** 作成されたファイルについて

---

書類提出前に、意図したとおり作成されているか報告書データ(XBRL 形式)の内容を必ず確認してください。

## 2 書類提出の手順

作成ツールで作成する各種報告書データ(XBRL 形式)の作成から提出までの手順について説明します。

書類提出までの一連の作業は次のとおりです。

### 1 作成ツールのダウンロード

[開示書類等提出者のサイト]から「報告書(XBRL)作成ツール」をダウンロードします。

### 2 報告書データ(XBRL 形式)の作成

ダウンロードした「報告書(XBRL)作成ツール」を使用し、次の手順で報告書データ(XBRL 形式)を作成します。

<手順>

- ① 報告項目の入力値(XHTML 等を含む)を用意する。
- ② 報告書(XBRL)作成ツールを起動する
- ③ 報告内容(①で用意した入力値)を入力する。
- ④ 【報告書(XBRL)を保存】ボタンをクリックし、提出用の報告書データ(XBRL 形式)を作成する。

### 3 報告書データ(XBRL 形式)の確認

作成した報告書データ(XBRL 形式)について内容を確認します。

### 4 EDINET に書類提出

作成した報告書データ(XBRL 形式)、その他の提出に必要なデータを併せて EDINET に提出します。

※書類提出手順は『書類提出 操作ガイド』を参照してください。

# 2 章

# 報告書の作成

---

# 1 作成ツールのダウンロード

作成ツールのダウンロード、作成ツールの解凍及びデジタル署名の確認について説明します。

## 1-1 作成ツールのダウンロード

作成ツールをダウンロードする手順について説明します。

### 1

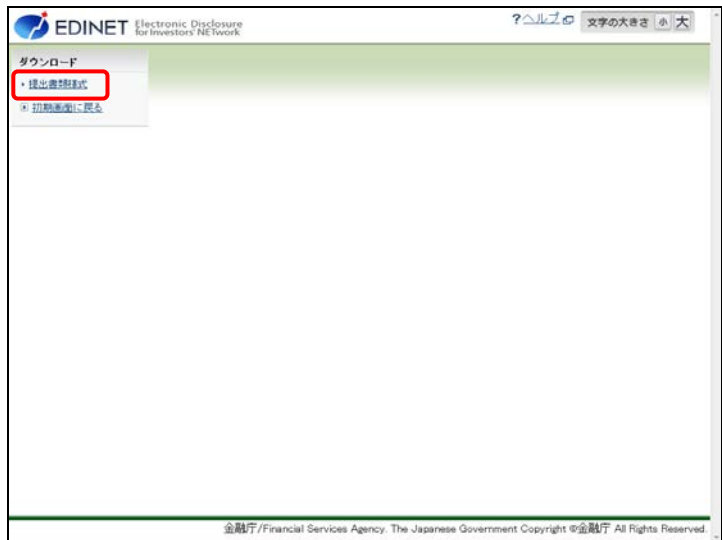
[開示書類等提出者のサイト]の《トップメニュー》から《提出書類様式》をクリックします。



[ダウンロード]メニューが表示されます。

## 2

《提出書類様式》をクリックします。



[提出書類様式ダウンロード指定画面]が表示されます。

## 3

《XBRL 作成ツールダウンロード》のXBRL 作成ツール名をクリックします。



[通知バー]が表示されます。

## 4

保存(S) (保存)の▼ボタンをクリックし、《名前を付けて保存》をクリックします。



[名前を付けて保存] が表示されます。

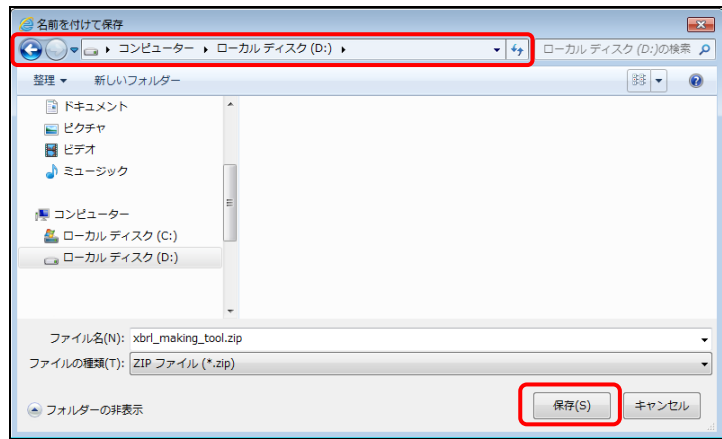
## 5

《保存する場所》を指定し、**保存(S)** (保存) をクリックします。

### 保存場所



作成ツールは、任意の場所に保存できますが、保存するフォルダ名を指定する際は、全角文字を含まないフォルダ名を指定してください。



[ダウンロードの完了] メッセージが表示されます。

## 6

**フォルダーを開く(P)** (フォルダーを開く) をクリックします。

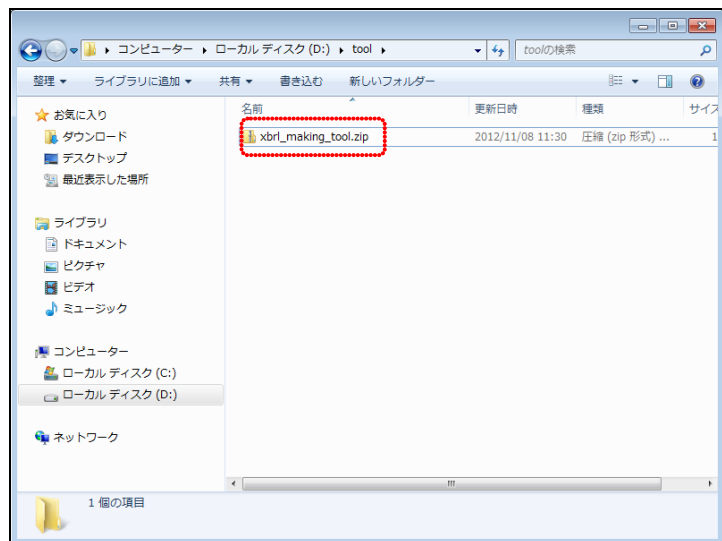


ダウンロードしたファイル (xbrl\_making\_tool.zip) が表示されます。

### ダウンロードファイルの解凍



ダウンロードしたファイルは ZIP 形式の圧縮ファイルです。ダウンロードファイルの解凍手順は「1-1-1 ダウンロードした作成ツールの解凍」(p.9)を参照してください。



## 1-1-1 ダウンロードした作成ツールの解凍

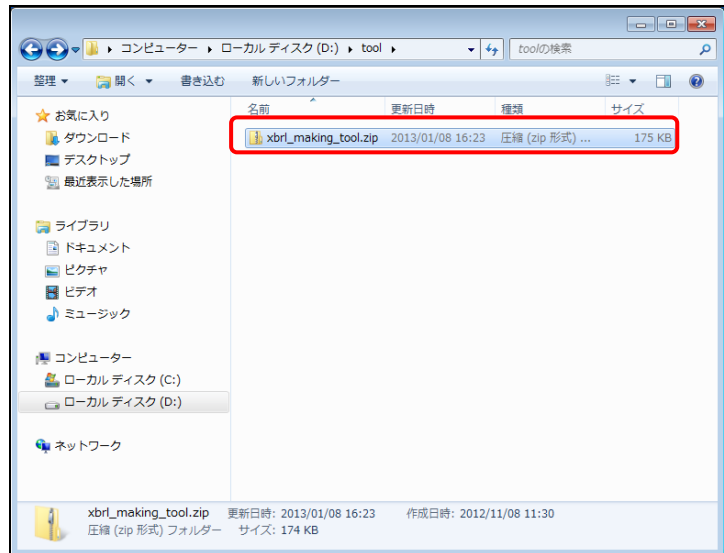
ダウンロードした作成ツールを解凍し、使用できるようにします。

### 1

ダウンロードした作成ツール (xbrl\_making\_tool.zip) をダブルクリックします。

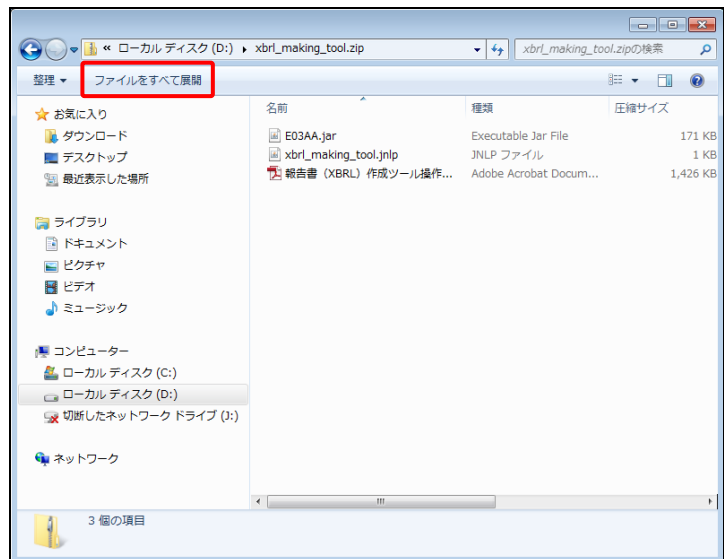
※作成ツールがない場合は、「1-1 作成ツールのダウンロード」(p.6)を参照してください。

※本書では、Windows7 で D ドライブの「tool」フォルダに作成ツールを保存した場合の操作の流れを説明しています。



### 2

《ファイルをすべて展開》をクリックします。



[圧縮 (ZIP 形式) フォルダの展開]  
画面が表示されます。

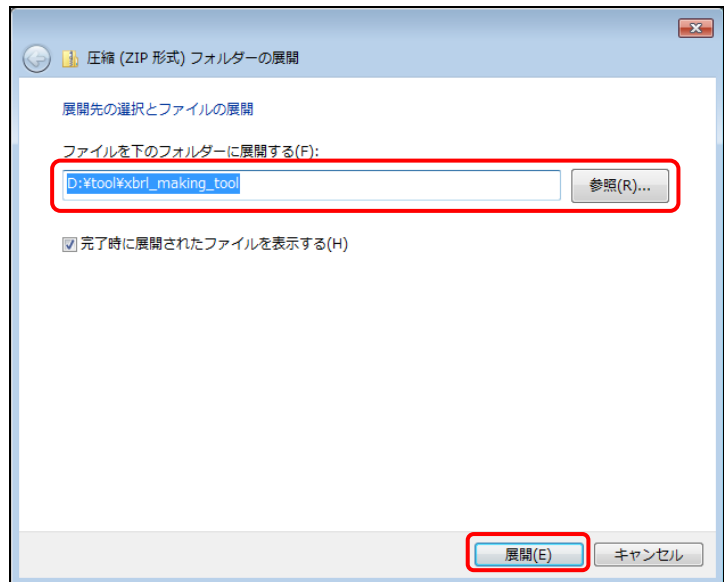
### 3

作成ツールの《展開先》を指定し、**展開(E)** (展開) をクリックします。

#### 展開先

#### POINT

作成ツールは、**参照(R)...** (参照) ボタンをクリックして任意の場所に展開できますが、展開先のフォルダ名を指定する際は、全角文字を含まないフォルダ名を指定してください。

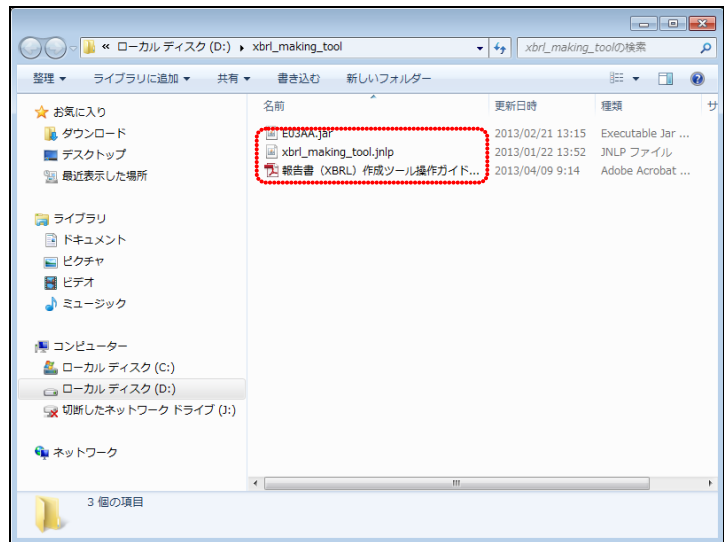


解凍されたファイルが表示されます。

#### 展開されたファイル

#### POINT

「xbrl\_making\_tool.jnlp」は、作成ツールを起動するファイルです。



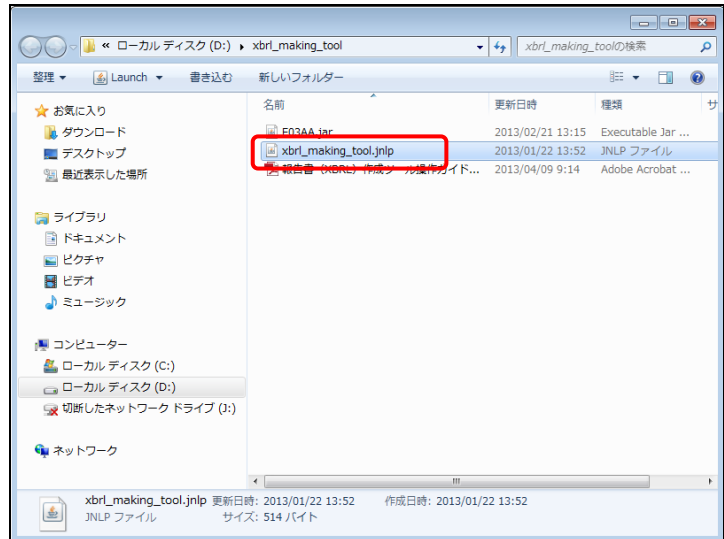


## 1-1-2 デジタル署名の確認

解凍した作成ツールのデジタル署名を確認します。

### 1

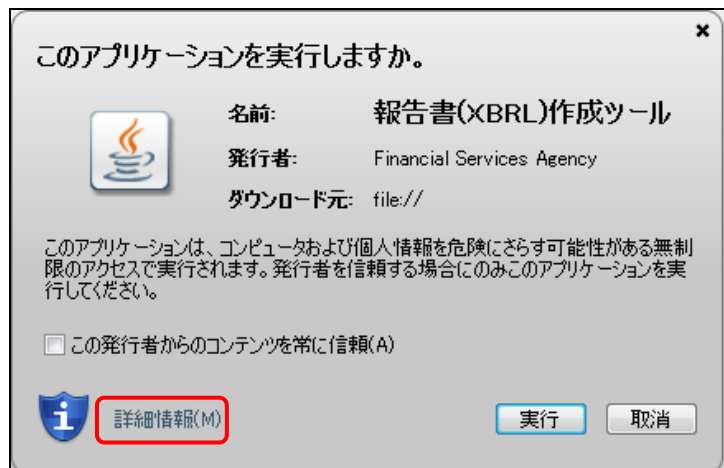
解凍した「xbrl\_making\_tool.jnlp」ファイルをダブルクリックします。



アプリケーション実行確認メッセージが表示されます。

### 2

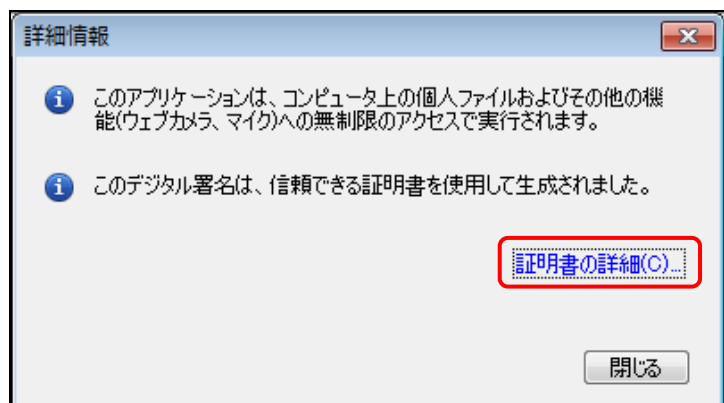
デジタル署名の詳細情報を確認します。《詳細情報》をクリックします。



[詳細情報] 画面が表示されます。

### 3

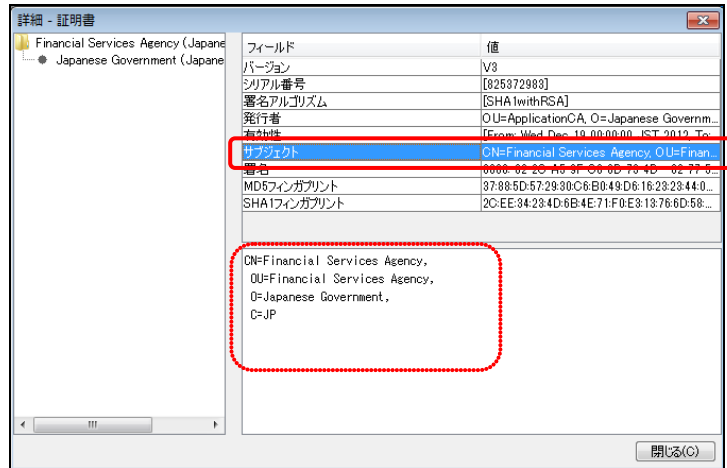
《証明書の詳細》をクリックします。



[詳細—証明書] 画面が表示されます。

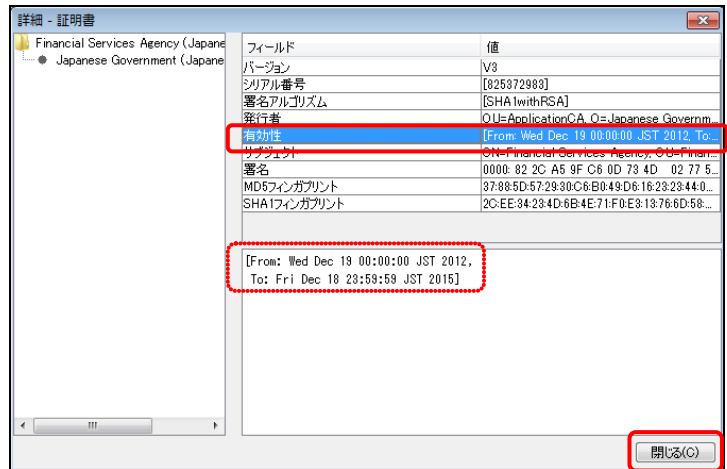
## 4

画面右上の《サブジェクト》をクリックし、画面右下に表示される内容を確認します。



## 5

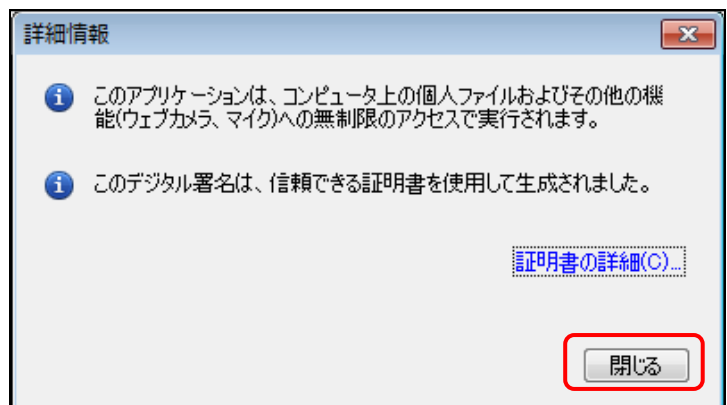
画面右上の《有効性》をクリックし、画面右下に表示される内容が有効期間内であることを確認します。確認後、**閉じる** (閉じる) をクリックします。



[詳細情報] 画面に戻ります。

## 6

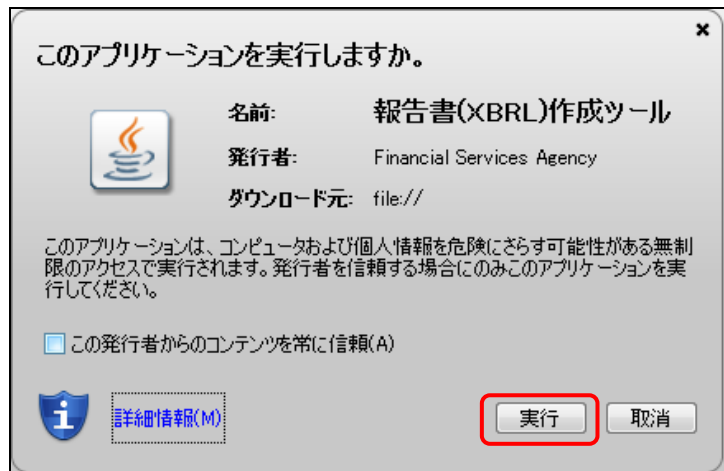
**閉じる** (閉じる) をクリックします。



アプリケーション実行確認画面に戻ります。

## 7

**実行** (実行)をクリックします。



作成ツールが起動し、[メニュー] 画面が表示されます。



## 作成ツールの削除

作成ツールが不要になった場合は、ダウンロードした ZIP ファイル及び解凍したフォルダを削除します。

# 2 報告書データ(XBRL 形式)の作成

報告書データ(XBRL 形式)の作成方法について説明します。

## 2-1 作成ツールの起動

作成ツールを起動する手順について説明します。

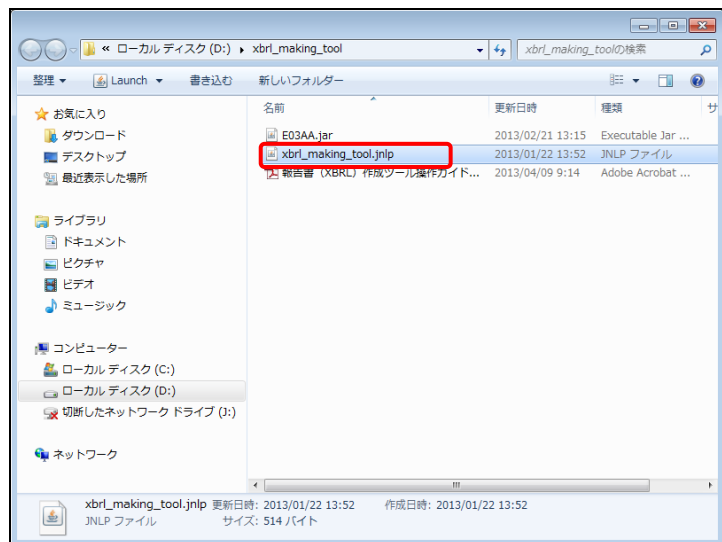
### 1

解凍した「xbrl\_making\_tool」フォルダにある、「xbrl\_making\_tool.jnlp」ファイルをダブルクリックします。

#### 保存場所



ツールを保存したフォルダ名に、全角文字が含まれていないことを確認してください(全角文字が含まれていると作成ツールを起動できません。)



アプリケーション実行確認メッセージが表示されます。

## 2

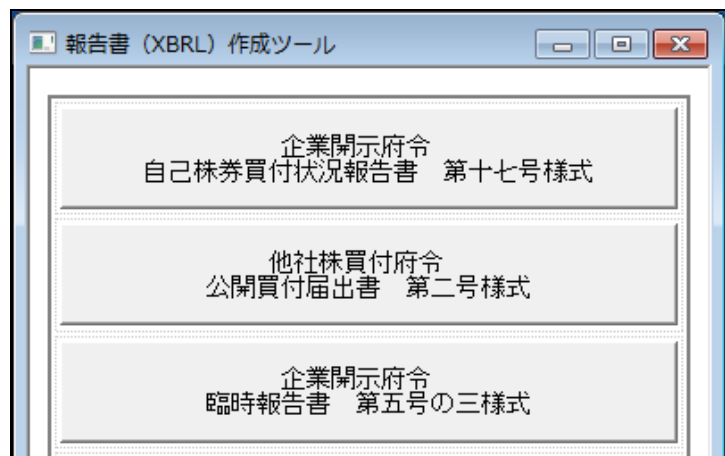
**実行** (実行)をクリックします。

証明書の確認



証明書詳細確認の操作手順は「1-1-2 デジタル署名の確認」(p.11)を参照してください。

作成ツールが起動し、[メニュー]画面が表示されます。




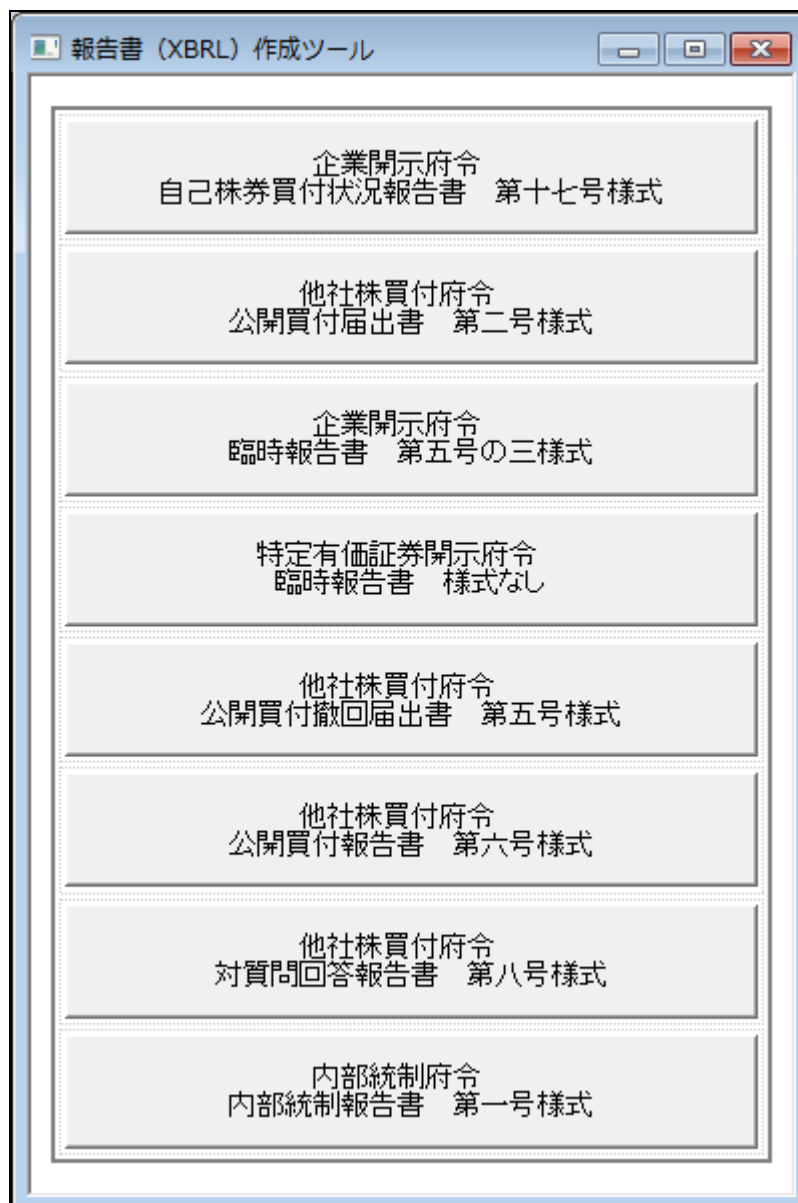
## 2-2 画面構成

作成ツールの画面構成について説明します。

### 2-2-1 メニュー画面

作成ツールを起動すると [メニュー] 画面が表示されます。ボタンをクリックすると、ボタンに記載されている報告書の作成画面が表示されます。

メニュー画面の右上の  (閉じる) をクリックすると、作成ツールを終了します。



## 2-2-2 作成画面

報告書の作成画面は次のとおりです。

※次の図は、企業開示府令 臨時報告書 第五号の三様式の例です。他の様式も同じ構成です。

## ■ DEI ■

## ■ 表紙 ■

## ■ 本文 ■

項目	説明
①府令様式名	メニュー画面で選択した府令様式名が表示されます。
② <b>報告書(XBRL)を開く</b> (報告書(XBRL)を開く)	作成済みの報告書データ (XBRL形式) を作成ツールに読み込みます。
③ <b>報告書(XBRL)を保存</b> (報告書(XBRL)を保存)	作成ツールに入力した内容で、報告書データ (XBRL形式) を作成します。[フォルダの参照] が表示され、指定した保存場所に「XBRL」フォルダ及び「PublicDoc」フォルダを作成し、保存します。 ※入力内容を保存する際には、「DEI」タブの次の項目を入力していることが必要です(表示される様式のみ)。 [提出書類情報]《提出日》、《報告対象期間期末日・報告義務発生日》及び《提出回数》 [提出者情報] 《EDINETコード》及び《ファンドコード》(ファンドコードについては表示される様式のみ)
報告項目	各項目に報告内容を入力します。報告項目は、DEI、表紙及び本文を入力するページがあり、タブをクリックして切り替えます。
④DEI	提出書類情報及び提出者情報を入力します。 チェックボックスの項目は、該当の有無を確認し、該当する項目の <input type="checkbox"/> をクリックして <input checked="" type="checkbox"/> にします。 ※《提出回数》は「1」以上の数値を入力します。
⑤表紙	報告書の表紙内容を入力します。
⑥本文	報告書の本文内容を入力します。 ※本文の各項目は、提出内容に合わせて記載すべき項目を選択してください。

### **重要** 入力項目について

- ・作成ツールの入力項目には、提出時に入力が必要となる項目があります。表紙及び本文については、法令に基づく報告内容を記載します。
- ・DEIについては、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』の『添付 5 様式ごとの DEI の設定値対応一覧』を参照し、入力します。



## 2-2-3 作成ツール使用時の注意点

作成ツールを使用する際の全体的な注意点は次のとおりです。

### ■ 入力の種類について

入力は、次のような種類があります。項目によって入力できる内容が異なりますので御注意ください。また、初期値が設定されている項目で、入力の必要がない場合は、当該初期値を削除してください。

入力の種類	入力できる内容
テキストボックス	テキストボックスには文字列（英数字、日本語）及び数値の入力ができます。改行ができないものと改行ができるもの（複数行入力が可能）とがあります。複数行入力可能なテキストボックスにはXHTMLのタグを入力できます。
日付	日付の入力ができます。表紙の日付項目が該当します。日付を指定する際の元号は <input type="button" value="▼"/> をクリックし一覧から選択します。
チェックボックス	設定する場合は <input checked="" type="checkbox"/> にします。設定しない場合は <input type="checkbox"/> にします。

#### <テキストボックス(改行できるもの(複数行入力可能))の例>

複数行の入力可能なテキストボックスは右端にスクロールバーが表示されます。

#### <テキストボックス(改行できないもの)の例>

改行できないテキストボックスの高さは1行分です。

### ■ 該当がない旨を記載する場合

表紙及び本文で、「該当事項はありません」というように該当がない旨の記載をする場合は、該当なしの入力欄に切り替えることができます。

初期状態では《該当》にチェックが入った状態です。

The screenshot shows a software window titled '他社株買付府令 公開買付届出書 第二号様式'. It has tabs for 'DEI', '表紙', '本文1', and '本文2'. Under '本文1', there is a section '第2【公開買付者の状況】'. Item '1【会社の場合】' has a checked checkbox labeled '該当'. A red callout bubble points to this checkbox with the text '該当する場合は、チェックを付け、内容を入力します。' Below the checkbox are input fields for '(1)【会社の概要】', '◎【会社の沿革】', and '◎【会社の目的及び事業の内容】'.

該当がない旨の記載をする場合は《該当》のチェックを外し、該当なしの入力欄に切り替えます。

なお、記載そのものがない場合は、入力欄に何も入力しないでください。この場合、チェックの有無にかかわらず入力欄の項目に対する XBRL データは作成されません。

The screenshot shows the same software window as above. In this view, the '該当' checkbox is unchecked. A red callout bubble points to the checkbox with the text '該当がない旨の記載の場合は、チェックを外します'. Below the checkbox, the text '(該当なし)' is visible in the input field.

該当ない旨の記載は、次に記載の文言のうちのいずれかを必ず選択してください。

<該当ない旨の文言>

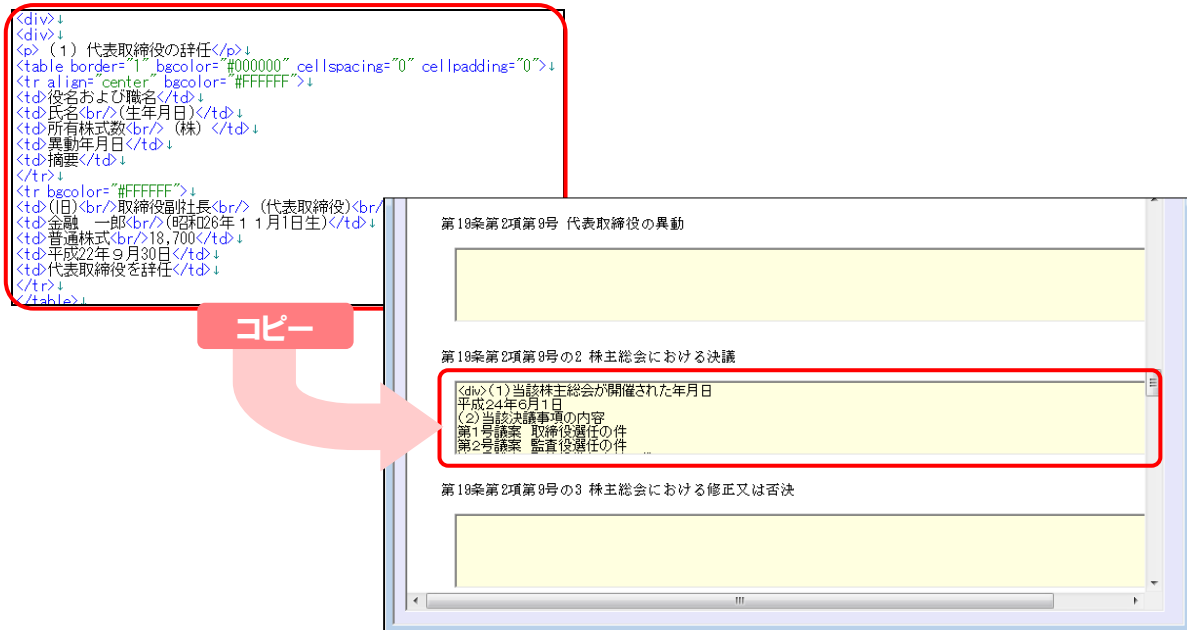
記載事項なし。	記載事項はありません。
記載事項なし	記載事項はありません
該当事項なし。	該当事項はありません。
該当事項なし	該当事項はありません
該当なし。	該当なし

### ■ テキストボックス(改行できるもの(複数行入力可能))の項目に XHTML のソースを入力する場合

XHTML を値として作成ツールに入力する場合は、項目に XHTML のタグを含むソースを直接入力又は別途テキストエディタで作成したソースを貼り付けることができます。

入力可能な箇所は「テキストボックス(改行できるもの(複数行入力可能))」です。  
 ※ソースの貼付けに当たっては『提出書類ファイル仕様書』も併せて参照してください。

#### <別途作成したソースをテキストボックスに貼り付けるイメージ>



また、1行当たりの文字数が50文字以上になる場合は、入力した内容が提出書類ファイル仕様であるA4サイズの内紙幅に収まるように、入力内容をタグで囲みます。追加するタグに style 属性を設定し、次の図の値を指定します。

**<div style="width:171.45mm; font-size:10pt">内容・・・</div>**

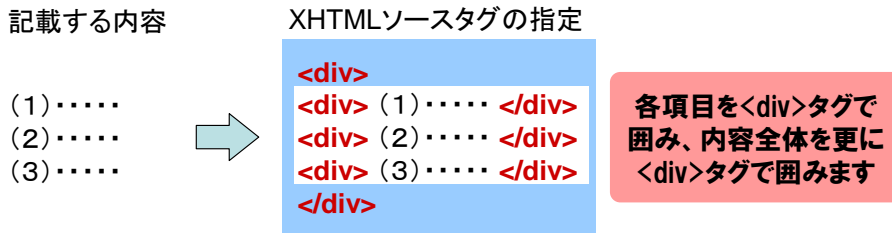
↑ div タグに style 属性を設定し、内容として「幅」及び「フォントサイズ」を設定します。  
 ※フォントサイズの指定は任意です。

XHTML のタグを含むソースを準備する場合は、次の事項に注意してください。

### ● HTML のバージョンについて

現行 EDINET で提出されているデータは HTML4.01 を推奨しており、そのままでは XHTML に準拠していません。あらかじめ変換をしておくことを推奨します。具体的な差異の例を次項目以降に示します。

例えば、次の図のような複数行に渡る内容を、XHTML ソースで作成ツールに入力する場合、<div>タグが必要です。XHTML のタグを記載しない場合、改行が無視されます。



### ● タグの使用

開始タグと終了タグが必ず必要です。

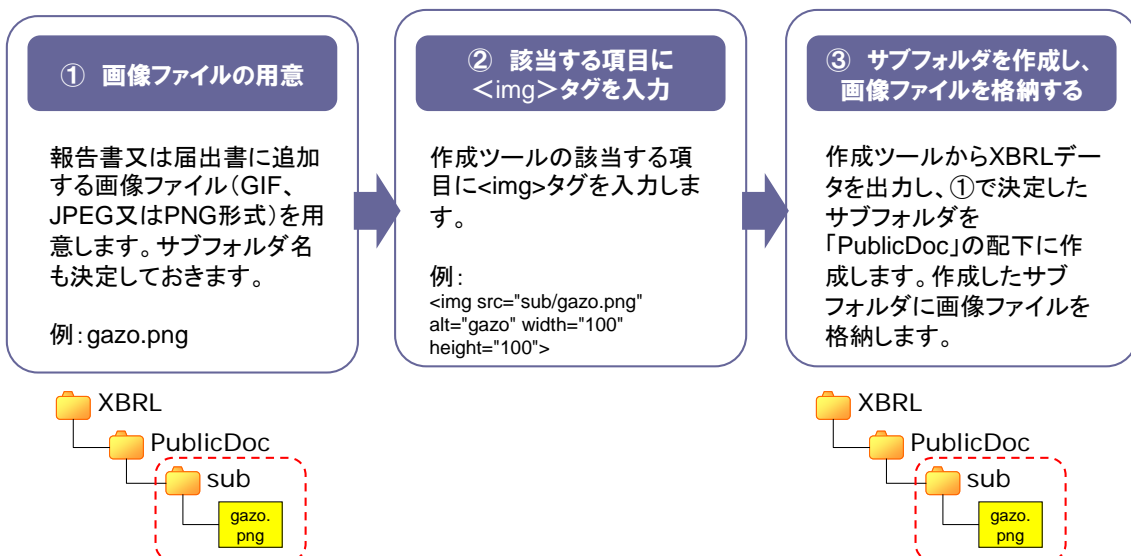
例:段落を示すタグ<p>を入れる場合、開始タグ<p>及び終了タグ</p>が必要。

× <p>●●● → ○ <p>●●●</p>

### ● 画像ファイルの参照

各入力項目に画像を直接貼り付けることはできません。

画像ファイルを使用したい場合は、XHTML のソースに<img>タグで画像への相対パスでの参照を記載します。作成ツールで XBRL データを出力したフォルダ内に、該当するサブフォルダを作成し、画像ファイルを格納してください。



### ● 実体参照について

テキストボックス (改行できるもの) では、タグで用いられる「<」、「>」等のマークアップ記号及び特定の記号を、そのまま入力すると、作成ツールから報告書データ (XBRL 形式) を出力する際にエラーとなります。これらの記号を入力値として使用する場合は、「**実体参照**」(「**文字実体参照**」) で入力します。

次の表は、文字実体参照が使用可能な文字の一覧です。

No	入力文字	代替文字
1	<	&lt;
2	>	&gt;
3	&	&amp;

これらの記号を数値文字参照で入力した場合は、EDINET に提出する際にエラーとなりますので、注意してください。

### ● 名前空間宣言について

XHTML のタグを含むソースを入力する場合、名前空間宣言は作成ツールで自動設定されるため入力する必要はありません。なお、次の名前空間が追加されます。

<http://www.w3.org/1999/xhtml>

このため、作成した書類を作成ツールで読み込むと、上記の名前空間の宣言が追加された状態で表示されます。

## 2-2-4 エラーメッセージの一覧

作成ツールを使用する際のエラーメッセージ及び対処方法は次のとおりです。

コード	メッセージ	※メッセージの{0}{1}は、項目又は入力内容を表します。 対処方法
ECT501A	フォルダ:{0}が既に存在しています。移動するか削除してください。	メッセージに表示されているフォルダについて、次のいずれかの処理をしてください。 ・フォルダの移動 ・フォルダ名の変更 ・フォルダの削除 ・別のフォルダを選択
ECT502A	【項目名】 入力されていません。	メッセージに表示されている項目は入力必須項目です。項目に入力後、再度保存します。
ECT503A	【項目名】 入力が不正です。 値:{0}の値]	メッセージに表示されている項目に入力した値を確認します。適切な形式で値を入力後、再度保存します。

コード	メッセージ	対処方法
ECT504A	【項目名】 入力が不正です。 和暦で入力してください。 値:[項目の値]	メッセージに表示されている項目に入力した日付が和暦として適切かどうかを確認します。適切な形式で値を入力後、再度保存します。
ECT505A	【項目名】入力された XML 形式が不正です。処理を中断します。詳細情報:{1}	メッセージに表示されている項目に入力した値が、XML として妥当な値であるかをチェックします。特にタグが全て閉じタグで完結していること、構造的に入れ子の関係が崩れていないことを確認します。適切な形式で値を入力後、再度保存します。
ECT506A	ファイルの保存に失敗しました。 利用環境を御確認ください。	指定したフォルダが読み取り専用フォルダでないかを確認後、再度保存します。 解決しない場合は、別の場所への保存を試してみてください。
ECT507I	以下のファイルを保存しました。 フォルダ名: {0} ファイル名: {n} ... 保存したファイル数分表示	ファイルが表示されている「フォルダ名」及び「ファイル名」で保存されたことを表す確認メッセージです。
ECT508A	有効なマニフェストファイルとして認識できませんでした。処理を中断します。	報告書データ(XBRL 形式)の読み込み時に、適切ではないマニフェストファイルが指定されています。適切なマニフェストファイルを再度指定し、開く処理を実行してください。
ECT509A	ファイル名:[{0}] XML 読み込みが失敗しました。 処理を中断します。	次の内容を確認し、修正後、再度、開く処理を実行してください。 ・マニフェストファイルの記載内容 ・記載されたファイル名が適切なインライン XBRL である ・ファイルが相対パス上に実在する
ECT510I	読み込みが終了しました。	報告書データ(XBRL 形式)の読み込みが完了したことを表す確認メッセージです。
ECT511A	{0}は{1}以下を入力してください。	該当する入力項目に指定した値以下の値を入力後、再度保存します。
ECT512A	{0}は 1 以上を入力してください。	該当する入力項目に 1 以上の値を入力後、再度保存します。
ECT513A	買付予定の株券等に係る議決権の数の総株主等の議決権の数に占める割合( $a / j$ )(%)と入力内容が一致しません。	該当する入力項目を修正後、再度保存します。
ECT514A	買付け等を行った後における株券等所有割合( $((a + d + g) / (j + (b - c) + (e - f)(h - i))) \times 100$ )(%)が入力内容と一致しません。	該当する入力項目を修正後、再度保存します。
ECT515A	買付け等後における株券等所有割合( $((a + d) / (g + (b - c) + (e - f))) \times 100$ )(%)と入力内容が一致しません。	該当する入力項目を修正後、再度保存します。

## 2-3 作成ツールの使用

作成ツールを使用し、提出用の報告書データ（XBRL形式）を作成します。また、作成済みの報告書データ（XBRL形式）を開き、修正できます。

### 2-3-1 報告書データ(XBRL形式)の作成

新規に報告書データ（XBRL形式）を作成します。

#### 1

作成ツールを起動します。

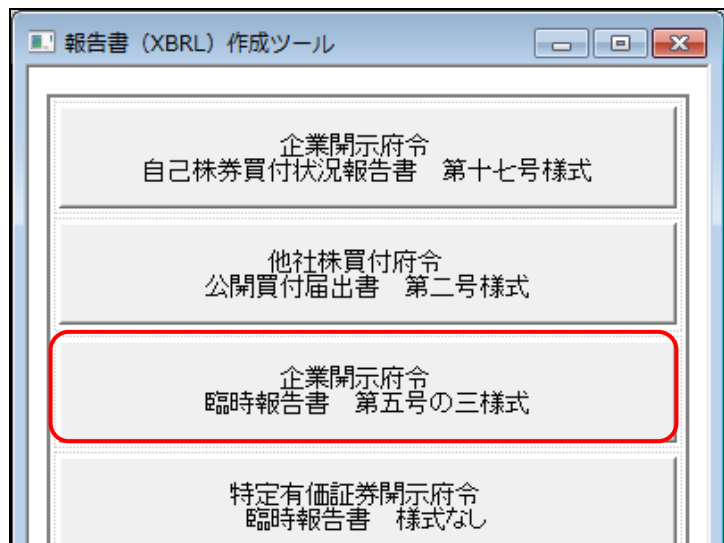
※作成ツールがない場合は、「1-1 作成ツールのダウンロード」(p.6)を参照してください。

[メニュー] 画面が表示されます。

#### 2

作成する報告書をクリックします。

※ここでは、「企業開示府令 臨時報告書 第五号の三様式」を例に説明します。



## 3

各項目を入力します。

入力する項目



DEI、表紙、本文の各項目を入力します。

箱型のテキストボックス



複数行入力可能な項目です。XHTMLのソースを入力できます。

## 4

報告書データ(XBRL形式)を作成します。入力内容を確認し、

**報告書(XBRL)を保存** (報告書(XBRL)を保存)をクリックします。

[フォルダーの参照]が表示されます。

## 5

保存先を指定し、**OK** (OK)をクリックします。

保存先フォルダの新規作成



**新しいフォルダーの作成(N)** (新しい

フォルダーの作成)をクリックし、保存用のフォルダを新規作成できます。



確認メッセージが表示されます。

内容にエラーがある場合



内容にエラーがある場合、エラーメッセージが表示されます。修正し、再度報告書データを作成します。

6

OK (OK)をクリックします。

XBRL ファイルの確認について



作成した XBRL ファイルの記載内容に誤りがないか必ず確認してください。

XBRL ファイルについて



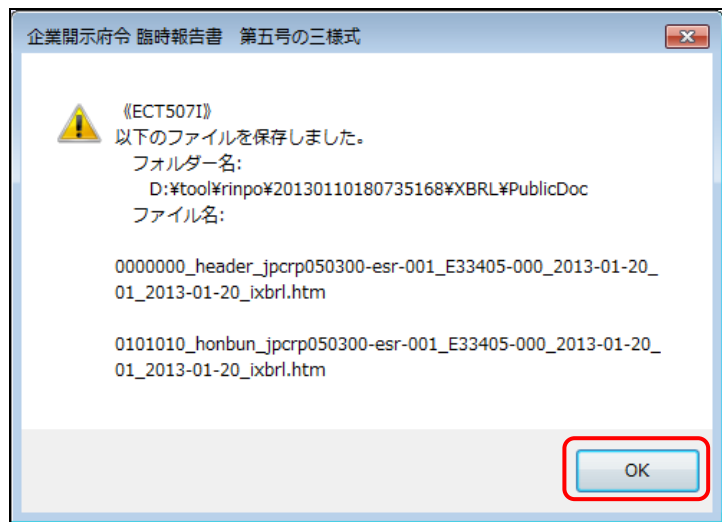
タグを入力した項目には「<http://www.w3.org/1999/xhtml>」が付加されます。

報告書の提出に当たって



必要に応じて画像ファイル及び添付文書を適切なフォルダに保存し、提出書類全体を完成してください。

入力画面に戻ります。



【DEI】	
提出書類情報	
府令	企業内容等の開示に関する内閣府令
様式	第五号の三様式
提出回数	1
訂正の有無	<input type="checkbox"/>
訂正報告書提出日	平成 2013 年 01 月 10 日
訂正対象書類の書類管理番号	
訂正の種類	
記載事項訂正のフラグ	<input type="checkbox"/>
XBRL訂正のフラグ	<input type="checkbox"/>
提出者情報	
提出者コード	
EDINETコード	E33405
証券コード	0069
提出者名	エディネット株式会社
提出者名 (英語表記)	EDINET Corporation

## 2-3-2 報告書データの編集

作成済みの報告書データ (XBRL形式) を作成ツールに読み込み、編集をします。作成済みの報告書データ (XBRL形式) を作成ツールに読み込む場合は、「マニフェストファイル」を指定すると、作成ツールで入力した値 (インスタンス値) を読み込みます。

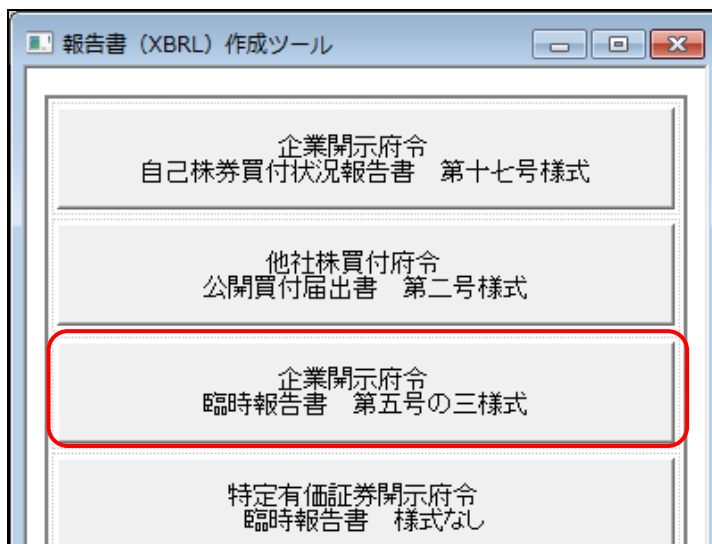
※作成ツール以外で作成したデータは読み込みができない可能性があります。

### 1

作成ツールを起動します。

※作成ツールがない場合は、「1-1 作成ツールのダウンロード」(p.6)を参照してください。

[メニュー] 画面が表示されます。



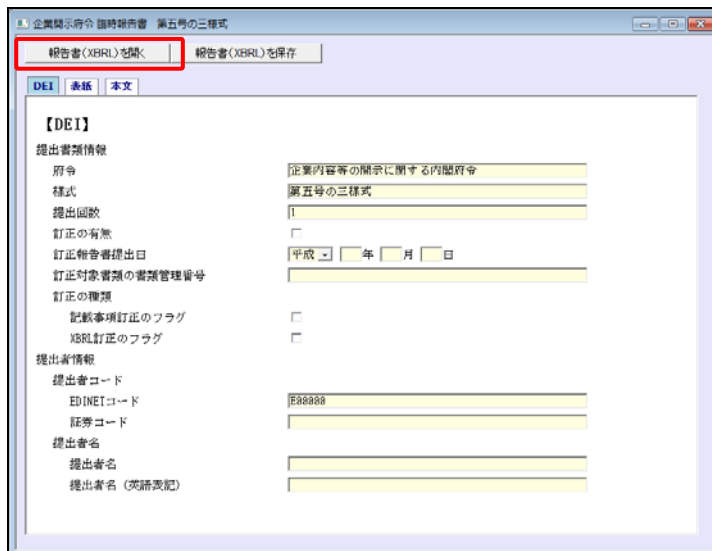
### 2

編集する報告書をクリックします。

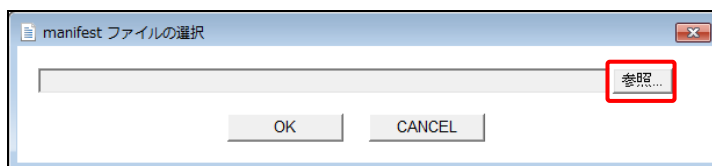
※ここでは、「企業開示府令 臨時報告書 第五号の三様式」を例に説明します。

### 3

**報告書(XBRL)を開く** (報告書(XBRL)を開く)をクリックします。



[manifest ファイルの選択] が表示されます。



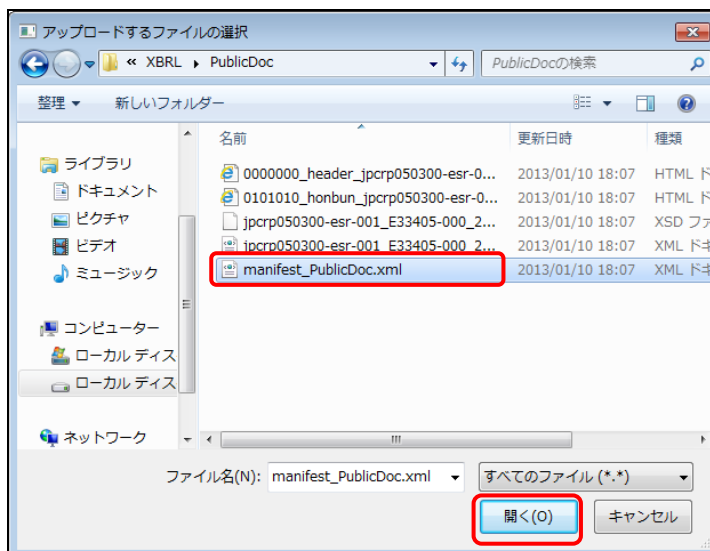
### 4

**参照...** (参照)をクリックします。

「アップロードするファイルの選択」が表示されます。

## 5

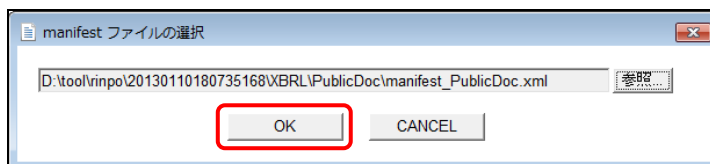
作成済みのマニフェストファイルを選択し、「開く(O)」(開く)をクリックします。



「manifest ファイルの選択」が表示されます。

## 6

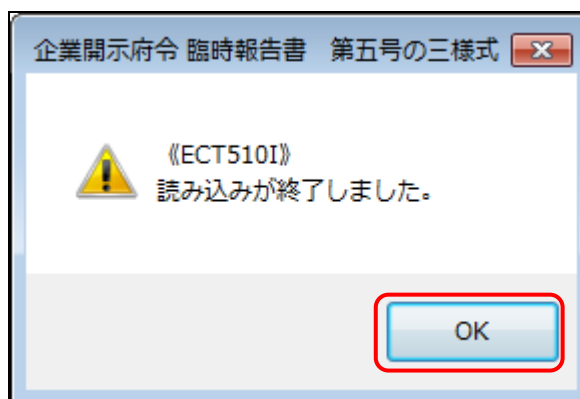
「OK」(OK)をクリックします。



確認メッセージが表示され、報告書の内容が読み込まれます。

## 7

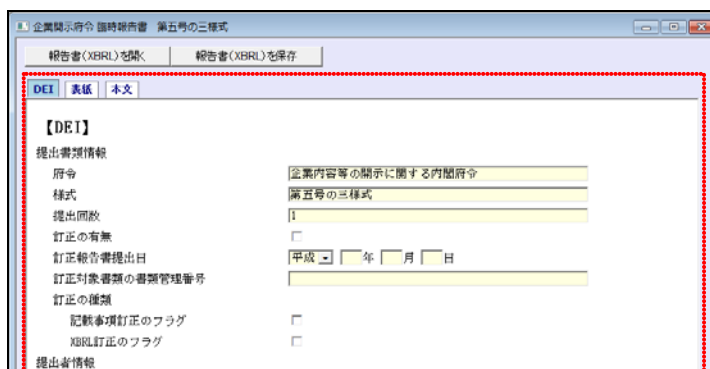
「OK」(OK)をクリックします。



読み込み結果の確認について **MEMO**

作成ツールで作成したファイルを独自に編集した場合は、正しく読み込まれないことがあります。項目が正しく読み込まれているか、必ず確認してください。

読み込まれた内容を確認後、編集します。

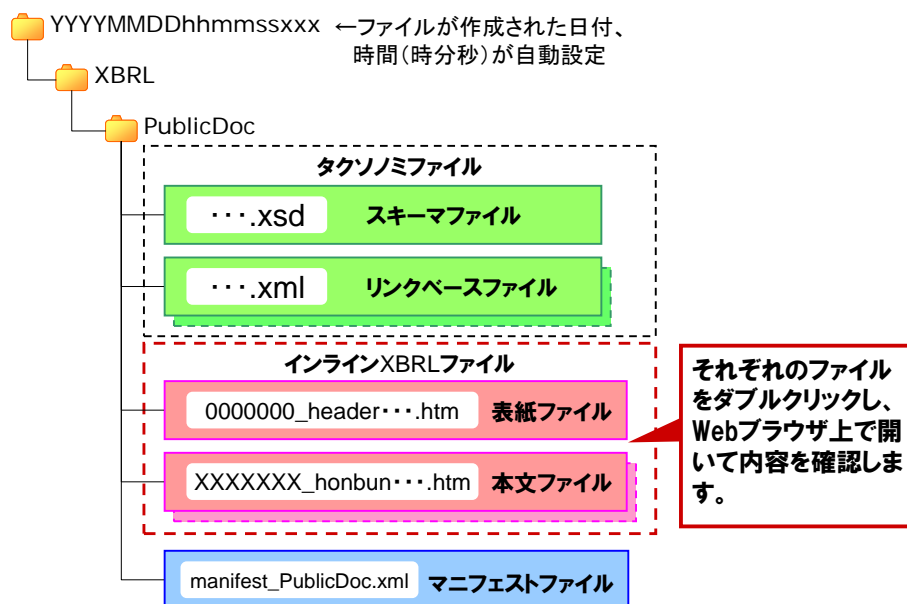


# 3 報告書データ(XBRL形式)の確認

報告書データ(XBRL形式)を確認します。

入力した内容を基に、報告書データ (XBRL形式) が次の図のように作成されたら、内容を確認します。表紙を確認する場合はファイル名に「header」が含まれるファイルを、本文ファイルを確認する場合はファイル名に「honbun」が含まれるファイルをダブルクリックし、Webブラウザ上で開いて内容を確認します。

※報告書データ(XBRL形式)作成時に指定したフォルダに、作成日付時間のフォルダが作成され、その配下に「XBRL」フォルダ、「PublicDoc」フォルダが作成されます。各種提出用のXBRLデータは「PublicDoc」フォルダ内に作成されます。



# 4 EDINET に書類提出

作成した提出書類データを EDINET に提出します。

作成した XBRL データを、EDINET に提出します。大まかな手順は次のとおりです。

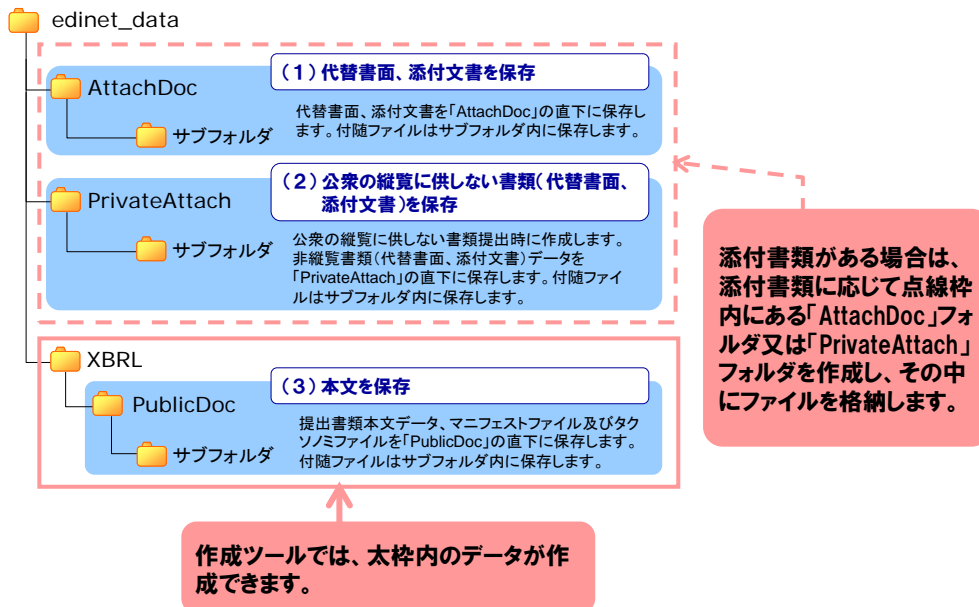
(1) 提出書類データを格納するフォルダを作成する。

※『提出書類ファイル仕様書 2章 フォルダの準備』を参照してください。

(2) 提出に必要なその他の提出書類データを用意し、(1)で作成したフォルダに格納する。

※『提出書類ファイル仕様書 3章 提出書類の作成』を参照してください。

※次の図は「edinet\_data」というフォルダを作成し、その中にフォルダを作成しているイメージです。



(3) EDINET に書類を提出する。

※『書類提出 操作ガイド 3章 書類提出』を参照してください。

# 5 訂正報告書の作成

作成ツールでは、訂正報告書を作成することはできませんが、訂正後の XBRL データ一式を作成できます。

訂正報告時には、「訂正報告書」及び訂正後の XBRL データ一式（提出者別タクソノミ、報告書インスタンス及びマニフェストファイル）が必要です。「訂正報告書」は HTML 形式で、開示書類等提出者自身で作成します。次のような流れで訂正報告書を作成します。

## (1) 訂正報告書の作成

HTML 形式で訂正報告書を作成します。

**参照** ▶ 『提出書類ファイル仕様書』

## (2) 訂正 XBRL データの作成

親書類として作成ツールで保存されたデータを開き、内容を修正します。修正又は入力時に、次の①から③までの修正をします。

① 《DEI》の次の項目を修正します。

DEI の項目		値
提出回数		数字（例：1→2）
訂正の有無		true
訂正報告書提出日		日付
訂正対象書類の書類管理番号		英数字
訂正の種類	記載事項訂正のフラグ	どちらか一方を true
	XBRL 訂正のフラグ	

※表紙及び報告書本文に訂正事項がある場合は「記載事項訂正のフラグ」を「true」とします。

表紙及び報告書本文に訂正事項がなく、DEI に訂正事項がある場合は「XBRL 訂正のフラグ」を「true」とします。両方が同時に「true」になることはありません。

- ② 《表紙》の《提出書類》の名称を次のように修正します。  
 《提出日》は当初提出日のままとし、修正しません。

項目	入力内容
【提出書類】	臨時報告書(平成25年10月1日付け訂正報告書の添付インラインXBRL) ←提出書類名の後に「(元号GG年M月D日付け訂正報告書の添付インラインXBRL)」と記載。
【提出日】	平成24年〇月〇日 ←当初提出日のままとし、修正しない。

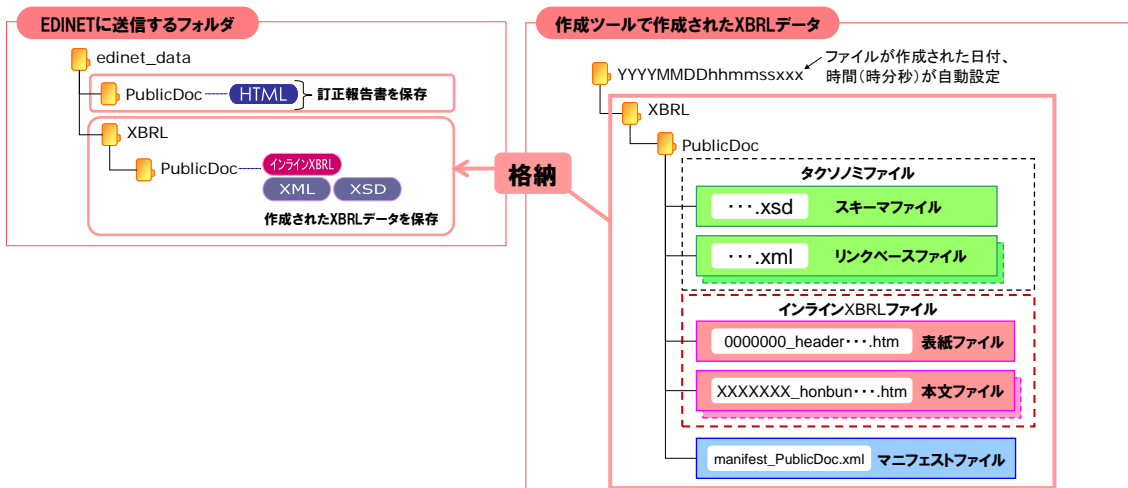
- ③ 各項目を修正し、**報告書(XBRL)を保存** (報告書(XBRL)を保存) をクリックし、XBRL ファイルを作成します。
- ④ 作成されたファイル名の「提出回数」を確認します(次は表紙ファイルのイメージで、太字部分が「提出回数」です。)

(初回提出時)	0000000_header_....._20131125_01_20131128_ixbrl.htm
(訂正報告時)	0000000_header_....._20131125_02_20131215_ixbrl.htm

※訂正報告時の網掛け部分が「訂正報告書提出日」となっていることを確認します。

(3) 提出書類データの準備

次の図表のようにフォルダを作成し、作成されたファイルを格納します(ルートフォルダ名は、「edinet\_data」としています。非縦覧本文書類が含まれない提出書類を例にしています。)



(4) EDINET に提出

EDINET にログインし、(3)で格納された提出書類データを提出します。

**参照** ▶ 『書類提出 操作ガイド』

## 5-1 訂正報告書作成時の注意事項

作成ツールを利用して、訂正後の XBRL データ一式を作成する場合、次の注意事項に留意してください。

### (注意事項 1)

「訂正報告書提出日」に入力した値は、**報告書(XBRL)を保存** (報告書(XBRL)を保存) をクリックした際に、インスタンス値としてインライン XBRL ファイルに出力しません。そのため、**報告書(XBRL)を開く** (報告書(XBRL)を開く) をクリックして訂正後のファイルを読込んだ際に、「訂正報告書提出日」に入力した値が作成ツール上には表示されません。訂正後のファイルを読込んでインライン XBRL を再作成するときは、「訂正報告書提出日」を再度入力してください。

### (注意事項 2)

「訂正報告書提出日」の入力の有無は、「訂正の有無」、「記載事項訂正のフラグ」又は「XBRL 訂正のフラグ」をチェックしている場合でも、チェックしません。

入力したかどうかは、訂正後の XBRL データを保存する前に必ず確認してください。



■■■ 更新履歴 ■■■

No.	更新日	更新内容
1	2013.05.20	2章 報告書の作成 「5 訂正報告書の作成」を追加



# 報告書(XBRL)作成ツール操作ガイド

## (次世代 EDINET 案)

平成 25 年 5 月

---